

第 19 回肝炎医療コーディネーター研修会議事録

1、研修会概要

(ア)日時：2018年10月23日(火) 15:30~17:00

(イ)場所：J:COM ホルトホール大分3階「大会議室」

(ウ)テーマ「肝炎医療コーディネーターの取り組みの実際」

(エ)総合司会：大分大学医学部附属病院 肝疾患相談センター 藤田 幸子 先生

(オ)プログラム

- ① 話題提供 1
- ② 話題提供 2
- ③ 全員参加のディスカッション
- ④ B型肝炎・C型肝炎簡易型診療情報提供書について

2、話題提供 1 15:30~15:55

(ア)座長：大分赤十字病院 肝胆膵内科 部長 成田 竜一 先生

(イ)演者：大分県福祉保健部健康づくり支援課 高木 道代 先生

(ウ)演題：肝がん・重度肝硬変医療費助成について

(エ)内容

肝がん・重度肝硬変医療費助成について下記の説明があった。

- 肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の概要
- 肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業における入院関係医療の範囲
- 肝がん・重度肝硬変（非代償性肝硬変）の診断・認定基準
- 肝がん・重度肝硬変（非代償性肝硬変）の病名の判定基準
- 肝がん・重度肝硬変（非代償性肝硬変）の治療目的の入院と判断するための医療行為一覧
- 肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業における指定医療機関の要件および役割

(オ)ディスカッション

- (質問) 本助成は「肝がん・重度肝硬変医療費助成」はB型肝炎・C型肝炎ウイルスが原因に限定したものか
- (回答) B型肝炎・C型肝炎ウイルスが原因に限定したものである。
- (質問) 助成に関して、医師から患者さんに積極的に話をした方が良いのか。それとも、患者さんから聞かれるのを待っていた方が良いのか。医師は日常診療内では助成の対象かどうかわかりにくい。
- (回答) リーフレットもある為、患者さんに説明して欲しい。
- (質問) 説明は医師がすべきか、事務がすべきか

- (回答) 医療機関毎異なると考える。最適な説明ルートをそれぞれの医療機関で判断して、実施して欲しい。
- (質問) この制度を利用する際には高額な治療をする時は 1 年間で完結した方がよいのか。例えば高額な手術が 13 か月目にかかりそうな場合は、なるべく 12 か月目で実施した方が良いのか
- (回答) 過去 1 年年間でみて公費負担を実施する為に、場合によっては 12 か月以内に治療を完結した方が負担が減るケースもある。
- (質問) 本制度は入院に限ったものか
- (回答) 入院のみである

3、話題提供 2 15:55~16:15

(ア)座長：大分学医部附属病院 肝疾患相談センター 清家 正隆 先生

(イ)演者：全国健康保険協会 福岡支部 企画総務部 大江 千恵子 先生

(ウ)演題：協会けんぽ福岡支部の肝炎対策事業－肝炎ウイルス検査促進とフォローアップ体制の構築－

(エ)内容

初めに協会けんぽの特徴、その保健事業に関して紹介された。

次に協会けんぽ福岡支部の肝炎検査の状況を説明された。それは、受験率は 4,500 人/年であり、陽性率は約 1%との事であった。

そして、福岡支部は、肝炎ウイルス受験者を増やす取り組みと陽性者へのフォロー体制の構築を肝炎ウイルス対策の柱として実施している事を紹介された。続けて、協会けんぽの肝炎検査の申し込み手続き、「是永研究班の介入結果」に関して紹介された。介入の結果、受験率が飛躍的に上昇するデータを示された。具体的な取り組みとして、介入する際のチラシの文字数を少なくする等、チラシの内容を工夫していること、検査無料化の取り組み、陽性者へ「5点セット(①送付状・②依頼書：主治医への手紙・③病院リスト：福岡県肝炎治療専門医療機関一覧表・④リーフレット：平成 27 年度厚生労働科学研究費補助金 肝炎等克服政策研究事業『効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築のための研究』で作成されたもの・⑤肝炎治療助成制度の案内)」を送付してる事を発表された。実際の今回の取り組みの中で報告されたウイルス陽性者の事例も紹介された。

最後に福岡支部が訴えていることは「一生に一度、肝炎ウイルス検査をうけましょう」であることをお話しされた。

(オ)ディスカッション

- (質問) 健康保険協会で、複数回肝炎ウイルス検査を受けているかどうか把握できるか
- (回答) 把握は出来ない。受けたかどうか分からず、迷っている方には受けて

頂く事をお願いしている。

- (質問) 福岡市部では肝炎ウイルス陽性者に対して「5点セット」の資料を送付してフォローをしているとの事だが、他の支部でも同様に陽性者に対してフォローをしているのか。
- (回答) 他の支部では資料を配布まではしていない。しかし、フォローをする動きは出てきている。埼玉支部等などいくつかの支部でもその様な活動をする事を検討している。
- (質問) 講演の中で肝炎検査を10医療機関で無料化を行い、その際に検査を受ける人数は増えたとのことだが、その時の費用はどれくらいかかったか。
- (回答) 一回の検査612円×3万人分である
- (質問) 検査費用として健康保険協会が国から補助を受ける事は出来ないのか
- (回答) 健康保険協会は国庫補助を頂いている。それ以上の補助を受ける事は難しいと考える。

4、全員参加のディスカッション 16:15~16:55

グループ毎ディスカッションを実施。グループは「拠点病院型」・「専門病院型」・「一般病院クリニック型」・「検診保健師型」・「行政保健師型」「透析クリニック型」の6つ。各グループで現在行っている肝炎医療コーディネーターの活動内容を列挙した。その後、「目指すもの・やりたいこと・どんなことができたらいいか」を列挙した。以上列挙した事をグループ毎模造紙にまとめた。今後、模造紙にまとめた内容について検討していく事になった。

5、「B型肝炎・C型肝炎簡易型診療情報提供書」について 16:55~17:00

肝疾患相談センターより「B型肝炎・C型肝炎簡易型診療情報提供書(以下、提供書)」に関して説明があった。この提供書は肝炎ウイルス検査陽性者の診療連携の為のもので、大分大学医学部附属病院 肝疾患相談センターと大分県が共同で作成し、医師会を通じて各医療機関に配布されている事が紹介された。提供書を活用し、一般医療機関と肝疾患診療連携拠点病院・肝疾患診療協力医療機関・日本肝臓病学会専門医のいる医療機関・肝疾患に精通している近隣の医療機関肝疾患が連携していく事の発表があった。

6、次回第20回研修会について

次回第20回は1月31日(木)に開催を予定しているとの連絡があった。

以上